

大学院生に望む

学 長 小 原 芳 明

今日のような高学歴化した日本社会で活動していくには、膨大な量とより高度な情報が必要で、す。「温故知新」にあるように、昔から蓄積された知識を基にして新しい知識は産み出されてきました。知識がさらなる知識を産み、そしてその応用で生まれた科学技術も「次世代」の知識を求めます。そうした活動は時代が進むにつれて加速されてきていますが、情報伝達技術の発展は新たに生産される速さと知識の量は幾何学的です。それゆえに知識が増える様は、「日進月歩」ではなく「秒進分歩」と言われているほどです。どの社会もSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に力を入れて世界をリードしようとしています。そうした活動の基礎を担っているのが大学院での修学です。

今ある知識をより深く理解した上に、新しい知識と技術が生産されるのを観るのは楽しみでもあります。「温故知新」とあるように基礎となる知識を土台にして新たな知識を産み出す機会が大学院です。ここでは、師弟同行であり双方向の知的活動への積極的参加型です。それには知識を得るために自ら行動し、未知の領域に「一歩前へ踏み込む」Proactiveな心構えが必要です。本学が掲げている「第二里行者」の精神とは、まさしくその心構えです。

どの社会も、より良い明日を目指し、社会へ貢献できる人を必要としています。そして、いつの時代でも、社会はより良い社会を創り出せる人的資本の構築を求めているのです。日本は輸出できるほどの地下資源に恵まれていません。わが国にとってSTEM分野の人的資源がいかに重要であるのかを認識し、社会に貢献できる人間となることを大学院での学修目的としてください。